



学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/

令和2年6月30日発行

令和2年度



「新しい生活様式」の中での「新しい学校生活」

副校長 宮崎 恵子

子どもたちの笑顔が学校に戻ってきてから1か月が過ぎました。再開直後の分散登校時には、久しぶりの学校にやや緊張気味の子どもたちでしたが、だんだんと学校生活に慣れ、表情も明るくなってきました。さらに一斉登校が始まると、それまで会えなかった友達と顔を合わせる喜びが感じられ、係活動や学級目標を話し合う際にも「この仲間と一年間頑張るぞ!」という意気込みが伝わってきました。楽しみにしていた音楽や家庭科などの専科授業や少人数授業も本格的にスタートし、学習に対する姿勢も意欲的です。「みんなで学習する」という、これまで当たり前だったこの時を楽しみに待っていたのは、私たち教職員だけでなく、子どもたちも同じだったのだと、嬉しく思いました。

しかし、学校が再開されたとはいえ、まだまだ新型コロナウイルスの感染防止については慎重に取り組む必要があります。政府の専門家会議からも「新しい生活様式」が提案されましたが、学校においても、いわゆる「3つの密（密集、密接、密閉）」を避け、「マスク着用」を基本とし、「手洗いを徹底」して生活を送っています。

ただ、学校生活において「3密を避ける」ということは、これまでの学習形態や活動内容を大きく変える必要があります。顔を突き合せてのグループ討議や班ごとの実験・観察、ドッジボールやバスケットボール、調理実習や全校集会など、感染防止の観点から当面中止だったり制限がかかっていたりする学習活動も多く見られます。仲間と学べる学校だからできる集団活動に制約がかかることは、大変残念です。

1日からは給食も始まります。「机は前向き。話しをせずに食べる。」という形の給食はこれまでとは大きく違い、「楽しく会食」することはできなくなります。配膳や片付けの方法も、これまでと同じようにできない部分が多く、子どもたちも最初は違和感や戸惑いがあることでしょう。しかし、これこそ「新しい生活様式」の中での「新しい学校生活」であり、学校生活と感染拡大防止対策を両立するためにはやむを得ないことです。残念なことはたくさんありますが、今は「みんなで学習できる」その喜びを大切に、みんなで感染防止に努めなければなりません。

今後、運動会や校外学習などにおいても、「新しい学校生活」を探っていく場面が多くあると思います。子どもたちの思いをできるだけ生かしつつ、感染防止も大事にしていくためにはどうしたらよいのか、今後も教職員で知恵を出し合い、より良い学習や活動の形を見つけていきたいと考えております。

保護者、地域の皆様も、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



朝、教室前で健康観察カードを提出し、体調チェックを受けます。



入室前に、ソーシャルディスタンスを守って手洗いをする一年生



教室の机も隣とは離し、距離を保って学習します。